

# まちの話題

## 「元気に大きく育ってね」 園児が稚アユの放流

4月28日、養父市関宮の八木川沿いの「水辺公園」で、関宮幼児センターの園児約30人がアユの稚魚を放流しました。  
このイベントは、円山川漁業協同組合が放流を通して自然に親しんでもらおうと市内の子どもたちを招いて行っているもので、この日放流したのは、高知県で養殖された体長6〜12センチの稚魚、約1万匹。

## 「はっとう、よござるか」

### お走りまつり

「みっこし」が川を渡ることで有名な「お走りまつり」が4月18日、19日の2日にかけて、養父地域で行われました。

養父神社を出発したみっこしは、建屋の斎神社を目指して出発し、翌日、養父神社に帰ってきます。

18日に行われるハイライトの「川渡御」では、10人の担ぎ手が、「はっとう、よござるか」と掛け声を上げ、みっこしを激しくゆらし、水の流れに逆らいながら川を渡りました。

川を渡りきると、見守っていた多くの観客から、大きな拍手がわき起こりました。



掛け声をあげながら川を渡る、みこしと担ぎ手

園児たちは、小分けされたバケツの中を覗き込み、飛び跳ねたり、元気に泳ぐ稚魚の姿に歓声を上げながら、「元気に大きく育ってね」と声を掛けながら放流しました。



歓声を上げながら稚魚を放流する園児たち

## 農業で地域とふれあい目指す

### ウィザスナビ校

4月2日、昨年開校したウィザスナビ高等学校に隣接する農地で、鹿よけフェンスの設置が行われました。

同校で行われる農業系講座の一環として行われる体験学習の準備で、講師となる地元の皆さんが一堂に会して行ったものです。

この講座は、農地での授業にとどまらず講師として携わる地元の方とのふれあいや、遊休農地の活用にも効果が期待される新たな取り組みです。

今後は、夏に実施されるスクーリングで、野菜づくりの実習が行われ、学生たちが植えた野菜の収穫が行われる予定です。



体験学習の準備をする地元の皆さん

市内の農業関係者らの身近な相談窓口

## 養父地域普及所がオープン

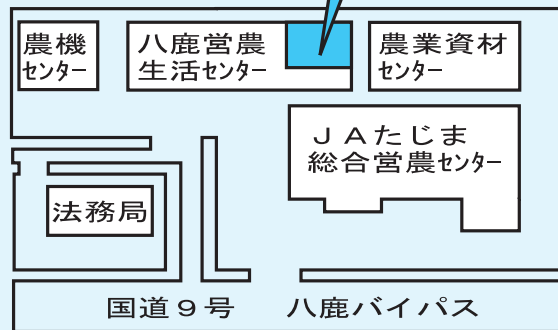
市内農業関係者の相談、指導の窓口となっていた八鹿農業改良普及センターが、平成21年4月1日から朝来農業改良普及センターに統合されたのに伴い、養父市内の農業関係者の利便性を維持するため、同センターの出先機関である「養父地域普及所」を、JAたじま八鹿営農センター内に新しく設置しました。

養父地域普及所では、毎週月、水、金の3日、野菜や果樹、畜産などを専門とする職員が駐在し、農業関係者から栽培技術などの相談を受けます。

養父地域普及所は、今後、市内の農業者の身近な相談・指導業務窓口として期待されています。



### 養父地域普及所



- ▶所在地 養父市八鹿町朝倉 1141
  - ▶開所日 毎週月・水・金曜日(祝日は除く)
  - ▶開所時間 午前10時～正午、午後1時～4時
  - ▶電話 ☎662-6175 (FAX兼用)
- ※朝来農業改良普及センターへお問い合わせの方は、☎672-6886～6890  
672-6899 (FAX)

## 拝啓 市民の皆様

ゴールデンウィークはいかががお過ごしでしたか。

今年は、景気の低迷と新型インフルエンザの影響が今ひとつ盛り上がり欠けていたような気がしました。

養父市は、八千高原の夏山開きも終わり、いよいよ夏の観光シーズンを迎えることとなります。

積極的な観光や交流は、来訪者の増加により地域の経済力を高め、過疎化した地域ににぎわいが訪れ、地域の再生に有効な手法となります。

養父市には個性豊かな歴史、風土と自然の恵みにより、多くの都市住民を引きつける魅力的な地域資源が数多くあります。

県下最高峰の氷ノ山、八千高原、明延鉱山、農村歌舞伎などの地域資源をさらに有効に活用するためには、中心となる観光軸を定め、多くの資源を上手くネットワーク化し商品としてPRに努める必要があります。

観光協会や市民団体などと一体になり、素敵な養父市を売り出し観光・交流150万人のまちづくりの実現に努めたいと思います。

そのためには、市民の皆様のもてなしの心が交流人にとって何にも勝るご馳走となります。

市長 広瀬 栄